

一歩を踏み出す勇気をもって

令和2年1月8日
第3学期 始業式より

●10 years after

**これからの10年が、
地球や人類の未来を決めると言われている。**

今、世界には解決すべき問題がたくさんある。
地球温暖化に代表される気候変動、食料や水の不足、
AIの進化とその軍事利用の恐れなど。
この10年の間に、これらの問題にどう対処するかで、
地球や人類の未来が決まるとのこと。



●海洋プラスチックごみ ゼロをめざす若者

**世界中の海のプラスチックごみを取り除き、再利用する
ことをめざしている若者がいる。**

名前はボイヤン・スラット。オランダの25才の青年
(NPO オーシャンクリーンアップ代表)

きっかけは、高校生のときのギリシャへの家族旅行。
ギリシャの海はさぞ美しかろうと期待して行っただが、
実際はごみが多かった。
とてもがっかりした、と同時に「これを何とかしたい」
と思ったとのこと。



彼は友人とごみの回収方法を研究しながら、NPO（民間の非営利組織）を立ち上げ、
8年前、17才のとき、そのアイデアを世界規模のプレゼンテーションの場で訴えかけた。
「僕は太平洋のごみを完全に無くしたい。できないなんて言わないで、一緒にやりましょう」
すると、こんな できっこないと思える計画に、1,000万円を超える寄附が寄せられた。
さらに、世界各地から、海洋学者など専門的な知識をもつ人からの協力の申し出があった。
メンバーたちは試行錯誤を重ねながら、ごみを回収するシステムを開発。
ついに、昨年、太平洋で、巨大なパイプを使って、プラスチックごみの回収に成功。
この後の大量回収に道筋をつけた。

ボイヤン・スラットさんは、こう言っている。
「困難だと思っても、取り組むことが大切です。
何もしなければ、悪くなるばかりだから。
小さなことでも構わないので、**まずは何かを始めること。**
その行動が、周りの人々を後押しする。
自分が変わらなければ、未来は変えられない。」

**Let's
begin !!**

●日本の高校生も

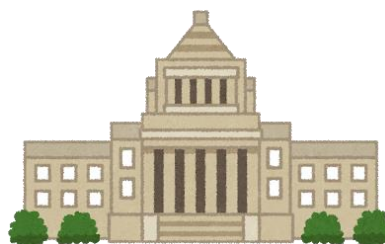
「おかしい」と高校生が声を上げて世の中が動いた

ということは、昨年、日本でもあった。

「英語民間試験の延期」

昨年 11 月 1 日、新しい大学入試制度として、
英検などの民間試験を導入することが決まっていたが、
急遽 延期されることになった。

もともと多くの問題点が指摘されていたが、延期になったのには、ある高校 2 年生が
「民間試験反対！」という声を上げ、それが国会で取り上げられたことが大きかった。



●一步を踏み出す勇氣

ポイヤンさんとこの日本の高校生に共通しているのは、
自分が何とかしたいと思ったことに対して、「**一步を踏み出す勇氣**」をもっていたこと。

どんなに高い山に登るのも一步から始まる。
その一步を無駄と思わないこと、諦めないこと。

これは、民主主義とは何かということに通じるのかもしれない。

**「民主主義とは、自分の運命を他人に委ねない、
自分の未来は自分で決めるという姿勢」**

どんどん、声を出し、行動してください。



●自身が勉強すること

ただ、そうするためには、しっかり勉強することが必要。
何も知らなければ（知識がなければ）、自分の意見をもてないので、誰かに吹き込まれた言葉
をそのまま信じてしまう。

勉強すれば、自分で考えられる、自分で判断できるようになる。

また、山に登ると遠くまで見渡せるように、勉強すれば人の視野は広がる。
すると、人の気持ちや考えが理解できるようになる。
そして、**互いの考えを尊重し合い、折り合いをつけて、よりよい着地点を見出すことができる。**
そのために、勉強してください。

●日常生活の中で

たいそうな話になってしまったが、小さなことでいい。
日常生活の中で、
**こうしたい、こうなったらいいなと思うことに対して
「一步を踏み出す勇氣」をもちましょう。**

では、2020 年、
皆さんのびっくらポンなスーパーファイトを期待して、
3 学期 始業式の言葉とします。

